

令和6年度「小・中・高等学校を通じた英語教育強化事業」
(AIの活用による英語教育強化事業/
AI英語モデル校事業・AI英語活用リーダー事業)

本事業に係る審査は、この審査要領に従って行う。

1. 審査の基本方針

審査は、申請された本事業に関する事業計画書及び経費計画書について、委託業務の実施方針、組織の経験・体制、業務従事予定者の経験・専門性について評価するとともに、ワーク・ライフ・バランス等の推進に関する評価も行う。

【補足】

- ・審査は、企画評価委員会の審査結果の上位から採択先を決定する。

※なお、多様性を確保する観点から、AI等の活用場面（テーマ）、AI等のデジタル技術の種類及び実証研究校の学校種等のバランスに考慮をして採択を行う場合がある。

2. 審査方法

①審査を実施するため「企画評価委員会」を設置する。

②企画評価委員会においては、受理された全ての申請について、審査委員が事業実施計画書等の申請書類の内容を確認する。

【補足】

- ・審査期間中に、必要に応じて、企画提案の内容について追加資料の提出やヒアリングの実施を求める場合がある。

- ・申請件数によっては、事前に書類審査による選考を行い、件数を絞った上で、ヒアリングを実施する場合がある。

③実施計画書等に基づく書類審査等を実施した上で、本事業の委託先として採択する団体を決定する。なお、企画評価委員会は、採択に際し、必要に応じて事業計画についての改善のための条件を付すことができる。

3. 審査の観点

本事業の審査に当たっては、別紙3審査基準に沿って審査を行う。本事業に関する事業計画書等について、事業の実施方針や組織の経験・能力について評価を行うとともに、ワーク・ライフ・バランス等の推進に関する評価も行う。

4. 開示・公開等

(1) 企画評価委員会の審議内容の取扱い

各提案書の審査及び会議資料については、審査を円滑に遂行する観点から原則非公開とする。ただし、企画評価委員会が公開とすることを決定したときは、この限りでない。

(2) 企画評価委員会委員の氏名について

企画評価委員会委員の氏名については、非公開とする。

5. 企画評価委員会委員の遵守事項

(1) 秘密の保持

企画評価委員会委員は、本審査で知り得た情報を口外してはならない。ただし、公表されている内容はその限りではない。

(2) 利害関係者の審査

- ①企画評価委員会委員は、競争参加者の中に次のいずれかに該当する者がいたときは、速やかにTOPPAN株式会社（以下、事務局）に申し出なければならない。
 - (ア) 競争参加者の事業計画書の中に、何らかの形で企画評価委員会委員自身が参画する内容の記載があった場合
 - (イ) 企画評価委員会委員が所属している法人等から申請があった場合
 - (ウ) 企画評価委員会委員自身が、過去5年以内に競争参加者から寄附を受けている場合
 - (エ) 企画評価委員会委員自身が、過去5年以内に競争参加者と共同研究又は共同で事業を行い且つそのための資金を審査委員自身が受け取っている場合
 - (オ) 企画評価委員会委員自身と競争参加者との間に、過去5年以内に取引があり且つ競争参加者からその対価を企画評価委員会委員自身が受け取っている場合
 - (カ) 企画評価委員会委員自身が、競争参加者の発行した株式または新株予約券を保有している場合
 - (キ) その他、競争参加者（競争参加者が法人の場合はその役員、その他事業計画書の中の研究代表又は共同参画者等を含む）との間に深い利害関係があり、当該競争参加者の審査を行った場合に社会通念上の疑義を抱かれるおそれがある場合等申請された提案に直接関係する協力者（以下「利害関係者」という。）は、事務局にその旨申し出ることとし、自己の関係する申

請書の審査を行わないこととする。また、企画評価委員会における個別審議に加わるができないこととする。

- ②前項の（ア）から（カ）に該当する場合、当該企画評価委員会委員はその関係性を有する競争参加者の審査を行ってはならない。

（３）不公正な働きかけ

- ①企画評価委員会委員は、当該審査について不公正な働きかけがあった場合は、すみやかに事務局に報告しなければならない。
- ②事務局は前項の報告を受けた場合は適切に対処しなければならない。